

2020年3月期決算説明資料

挑戦と創造

2020年5月19日

アイカ工業株式会社

1

本日は当社の2020年3月期決算説明会にご参加頂きまして、
ありがとうございます。

それでは、
これより当社の決算の概況と、
今後の事業展開について
ご説明させていただきます。

本資料に掲載されているアイカ工業株式会社の現在の計画、見通し、戦略、確信等のうち、歴史的事実でないものは、将来の業績に関する見通しであり、リスクや不確実な要因を含んでおります。

これらの情報は、現在入手可能な情報からアイカ工業株式会社の経営者の判断に基づいて作成されております。実際の業績は、さまざまな重要な要素により、業績見通しとは大きく異なる結果となりうるため、業績見通しのみで全面的に依拠することは控えるようお願い致します。

また、本資料は、投資勧誘を目的としたものではありません。投資に関する決定は、利用者ご自身のご判断において行われますようお願い申し上げます。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C & C2000の進捗
 5. 配当について
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

ご覧の目次に従って、
2020年3月期決算実績、2021年3月期決算予想、
その他ご覧の項目について、ご説明いたします。

1. 2020年3月期 連結決算の概要

AICA

[単位:百万円]

	2019/3期		2020/3期				
	実績	率	計画	実績	率	伸率	達成率
売上高	191,363		195,000	191,501	-	0.1%	98.2%
営業利益	20,834	10.9%	21,800	20,850	10.9%	0.1%	95.6%
経常利益	21,249	11.1%	22,000	21,333	11.1%	0.4%	97.0%
当期純利益※	13,316	7.0%	13,800	12,732	6.6%	▲4.4%	92.3%

※:親会社株主に帰属する当期純利益

外国子会社合算税制改正および
非支配株主持分等の影響のため減益

[一株当たり単位:円]

	実績	率	計画	実績	率	伸率	達成率
ROE	10.7%	-	10.6%	9.9%	-	-	93.4%
一株当たり純利益	203.95	-	211.35	195.01	-	-	92.3%
一株当たり株主資本	1,936.87	-	2,043.22	1,994.03	-	-	97.6%

4

2020年3月期の連結業績の概要は、ご覧の通りです。

売上高 1,915億 100万円、

営業利益 208億5,000万円、

経常利益 213億3,300万円、

となり、売上高・営業利益・経常利益は共に前年を上回ることができました。

一方、親会社株主に帰属する当期純利益 127億 3,200万円 は、
外国子会社合算税制改正 および 非支配株主持分等 の影響のため、
前年を下回りました。

なお、「親会社株主に帰属する当期純利益」については、
以後、「当期純利益」と省略させていただきます。

1. 2020年3月期 連結決算の概要

AICA

伸び率

売上高	+0.1%	10期連続増収
営業利益	+0.1%	11期連続増益
経常利益	+0.4%	11期連続増益

売上・営業利益・経常利益：8期連続 過去最高を更新

- 国内事業：建装建材事業が増収に寄与
原材料安により化成品事業が増益に寄与
- 海外事業：原材料安に伴う売価低下により、アイカ・アジア・パシフィック社と、エバモア社が減収増益
ソイス社の新規連結効果や既存事業伸長により
アジアにおける化粧板販売増加

5

売上高は10期連続増収、
営業利益・経常利益は11期連続増益となりました。

また、売上高・営業利益・経常利益は、8期連続で過去最高を更新しました。

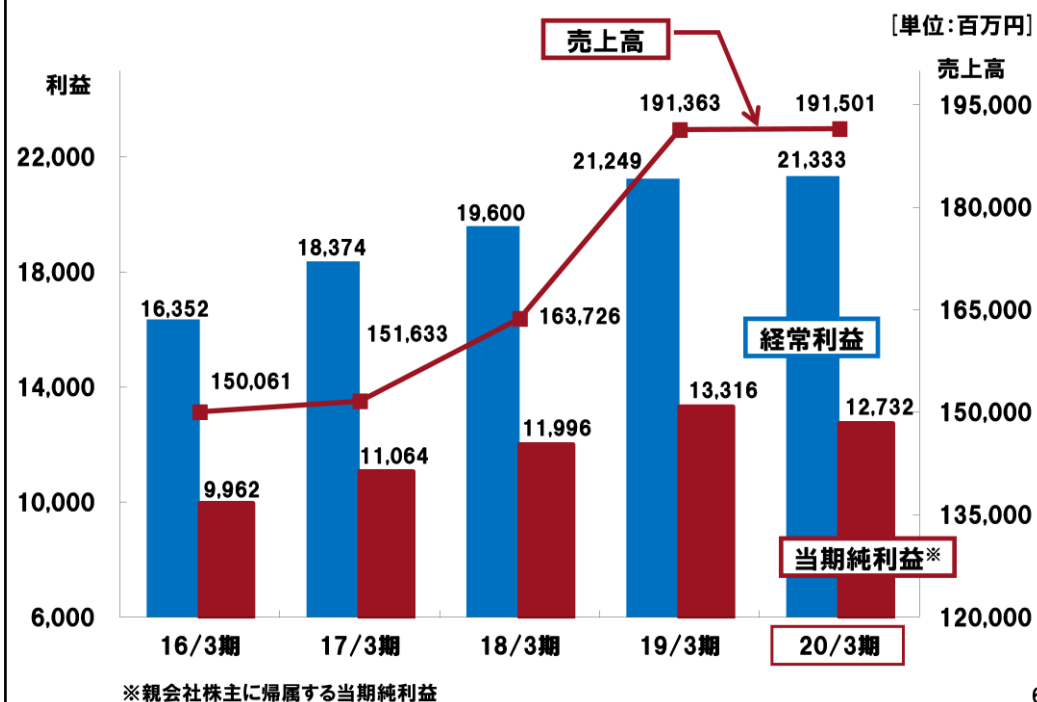
国内事業においては、
建装建材事業が増収に寄与しました。
化成品事業は、原材料安により増益に寄与しました。

海外事業では、
化成品セグメントにおいては、原材料安に伴う売価低下により、
アイカ・アジア・パシフィック社とエバモア社が減収増益となりました。

建装建材セグメントにおいては、ソイス社の新規連結効果や
既存事業伸長により、アジアにおける化粧板販売が増加しました。

1. 過去5年間 連結決算の推移

AICA

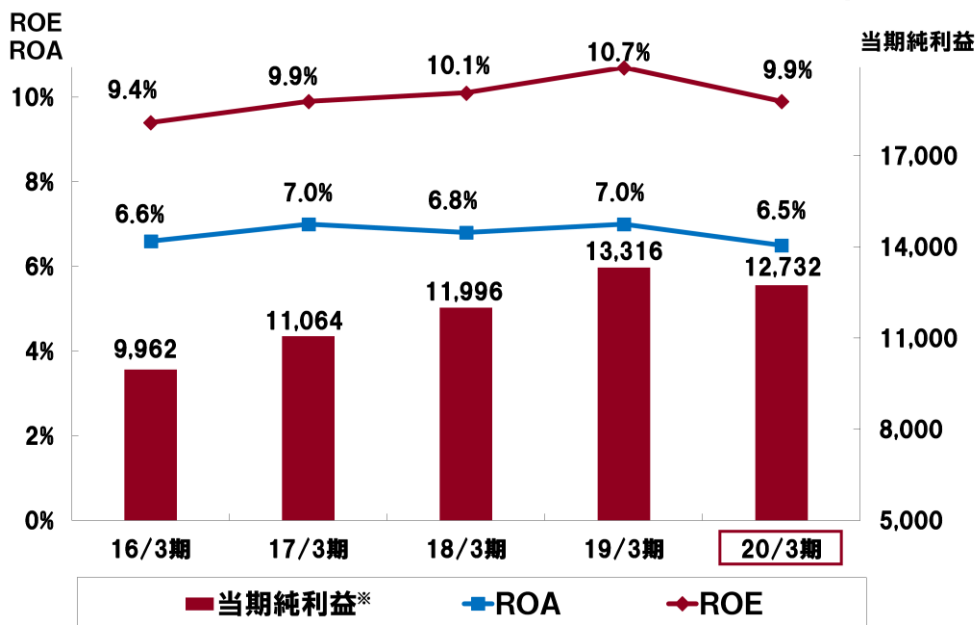


最近5年間の
連結売上高、経常利益、当期純利益の推移は
スライドの通りです。

1. 過去5年間 ROA・ROEの推移

AICA

[単位:百万円]



※親会社株主に帰属する当期純利益

7

ご覧のスライドは、ROA、ROEの推移です。
ROEについては、9.9%となりました。

1. 2020年3月期 主要項目の状況

AICA

	2018/3期	2019/3期	2020/3期
	連結	連結	連結
期 末 人 員	3,850人	3,920人	4,781人
（ 国 内 ）	1,559人	1,603人	1,625人
（ 海 外 ）	2,291人	2,317人	3,156人
借 入 金 残 高	51.5億円	52.9億円	71.9億円
研 究 開 発 費	28.5億円	32.0億円	34.5億円
減 価 償 却 費	35.6億円	41.7億円	46.2億円
設 備 投 資 額	45.2億円	78.9億円	71.3億円

【設備投資の主なもの】

建装建材セグメント

- ・アイカテック建材の生産設備増強
- ・アイカ・ラミネーツ・ベトナム社の工場設備費用
- ・アイカインドネシア社の土地使用権購入

化成品セグメント

- ・福島危険物自動倉庫
- ・AAP中国設備増強費用
- ・AAPタイの反応釜増設

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

8

続きまして、人員、借入金、研究開発費、減価償却費、および設備投資額等の状況です。

2020年3月期の設備投資額は、約71億円でした。

主なものは、建装建材セグメントでは、アイカテック建材の生産設備増強に約5億円、

アイカ・ラミネーツ・ベトナムのメラミン化粧板工場生産設備費用に約7億円、

アイカインドネシア社の土地使用権購入費用に約5億円等がありました。

化成品セグメントでは、福島危険物自動倉庫に約4億円、

アイカ・アジア・パシフィック、略してAAPの、タイにおけるフェノール反応釜増設や、AAP中国の設備増強費用など、AAPで、約18億円を投資しました。

1. 2020年3月期 セグメント別実績

AICA

[単位:百万円]

	売上高			営業利益			
	2019/3期 実績	2020/3期 計画	2020/3期 実績	2019/3期 実績	2020/3期 計画	2020/3期 実績	
化成品	109,062	108,700	103,945	7,444	8,100	8,123	金額
				6.8%	7.5%	7.8%	利益率
建装建材	82,300	86,300	87,555	16,169	16,600	15,874	金額
				19.6%	19.2%	18.1%	利益率
(配賦不能営業費用→)				▲ 2,779	▲ 2,900	▲ 3,147	金額
合計	191,363	195,000	191,501	20,834	21,800	20,850	金額
				10.9%	11.2%	10.9%	利益率

9

2020年3月期の、
セグメント別の売上高と営業利益は、スライドの通りです。

ここでは、営業利益の増減を中心にご説明をさせていただきます。

化成品セグメントの営業利益は
81億2,300万円と、計画の81億円を上回りました。
営業利益率も7.8%と、計画の7.5%を0.3ポイント上回りました。

これは原材料価格低下やエバモア社の増益が主な要因です。

建装建材セグメントの営業利益は、
158億7,400万円と、計画の166億円を下回りました。
営業利益率も18.1%と、計画の19.2%を下回りました。

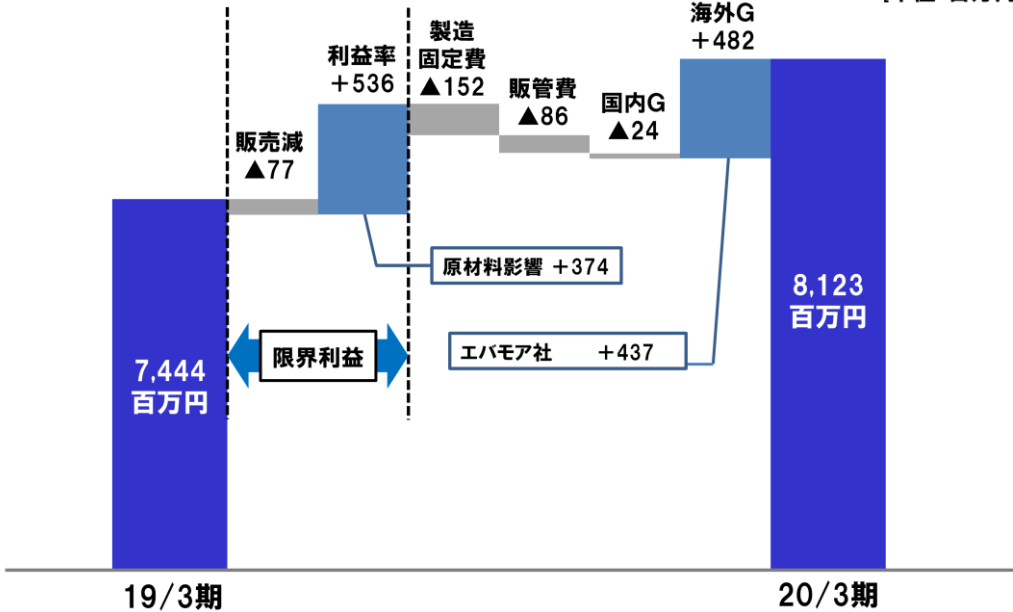
これは、ウィルソナート社のM&Aにかかるアドバイザー費用や、
ベトナム新工場立上げに伴う操業赤字などが主な要因です。

1. 利益増減(化成品) <19/3期 vs.20/3期>

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益

[単位:百万円]



10

このスライドは、化成品セグメントにおける
2019年3月期と2020年3月期の
営業利益の差異について要因別に分析したものです。

利益の改善要因といたしましては、
“原材料価格低下による利益率の上昇”や、
“エバモア社などの海外グループ会社の増益”で、
10億1,800万円の増益要因がありました。

一方、利益減少要因といたしましては、
“人件費増”、“設備投資増に伴う減価償却費の増加”等で、
3億3,900万円の減益要因がありました。

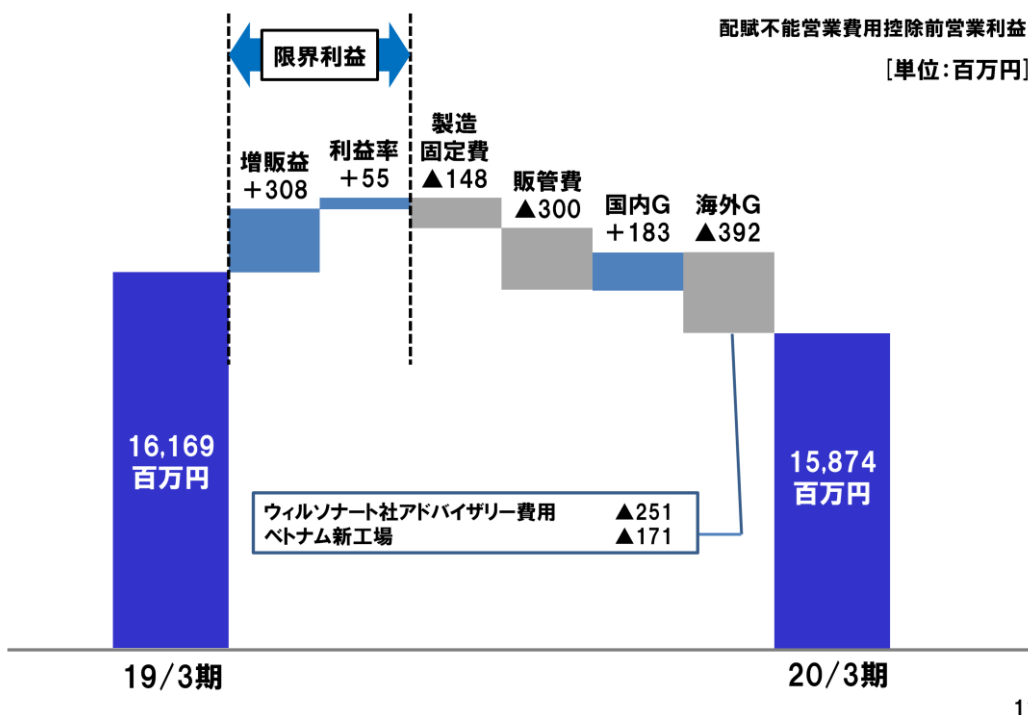
この結果、差し引き6億7,900万円、利益が増加いたしました。

1. 利益増減(建装建材) < 19/3期 vs.20/3期 >

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益

[単位:百万円]



11

続いて、建装建材セグメントです。

利益の改善要因といたしましては、
 “販売増”や“利益率の改善”、
 “アイカテック建材などによる国内グループ会社の増益”で、
 5億4,600万円の増益要因がありました。

一方、利益減少要因といたしましては、
 “製造固定費・販管費の増加”、
 “ウィルソナート社のM&Aにかかるアドバイザー費用”や
 “ベトナム新工場立上げに伴う操業赤字などによる海外グループ会社の減益”で、
 8億4,000万円の減益要因がありました。

この結果、差し引き2億9,500万円、利益が減少いたしました。

1. 2020年3月期 実績
 - 2. 2021年3月期 予想**
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C & C2000の進捗
 5. 配当について
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

続いて、今期の通期業績予想についてご説明いたします。

2. 2021年3月期 業績予想の前提

AICA

■ 経営環境

為替換算レート

※各国通貨建てのため、ドル建ての子会社は僅か

2020年3月期(実績) 1USD=109.37円

2021年3月期(想定) 1USD=107.00円

国産ナフサ価格

※すべての原材料がナフサに連動するわけではありません

2020年3月期(実績) 45,750円/kl

2021年3月期(想定) 27,750円/kl

売上高の前提(前年比)

		上期	下期	通期
国内		▲15%	▲5%	▲10%
海外	化成品	▲20%	▲10%	▲15%
	建築建材	▲20%	±0%	▲10%

※新規連結会社を除く

※連結取引消去前の売上高

13

当社は2020年4月30日に公表いたしました「2020年3月期 決算短信」におきまして、新型コロナウイルス感染症の影響を合理的に算定することが困難であることから2021年3月期の業績予想を「未定」としておりました。

しかしながら、日本の緊急事態宣言の一部解除ならびにアジア・オセアニア各国における経済活動再開等の動きが見え始めたことから、本日11時30分に2021年3月期業績予想を、適時開示いたしました。

業績予想は、ご覧の「為替」・「ナフサ価格」の前提や、2020年1～4月の海外連結子会社の業績速報、2020年4月の国内売上動向、各国における経済動向をベースにしております。

加えまして、2020年は新型コロナウイルス感染症の影響による市況悪化から徐々に回復し、年明けの2021年1月より、その影響から ほぼ回復するとの前提で策定をしております。

2. 2021年3月期予想

AICA

[単位：百万円]

	2020/3期 実績		2021/3期 予想			対前期
	金額	利益率	金額	利益率	伸率	増加額
売上高	191,501	-	174,500	-	▲ 8.9%	▲ 17,001
営業利益	20,850	10.9%	14,500	8.3%	▲30.5%	▲ 6,350
経常利益	21,333	11.1%	14,700	8.4%	▲31.1%	▲ 6,633
当期純利益※	12,732	6.6%	9,000	5.2%	▲29.3%	▲ 3,732
R O E	9.9%	-	6.9%	-	-	-
R O A	6.5%	-	4.4%	-	-	-
一株当たり純利益	195.01円	-	137.84円	-	-	-
一株当たり株主資本	1,994.03円	-	2,025.87円	-	-	-
研究開発費	34.5億円	-	36.0億円	-	-	-
減価償却費	46.2億円	-	57.3億円	-	-	-
設備投資額	71.3億円	-	70.0億円	-	-	-

※：親会社株主に帰属する当期純利益

14

2021年3月期の連結業績予想はご覧のとおりです。

なお、実際の業績は、新型コロナウイルス感染症拡大の収束時期、海外および国内の景気動向、為替動向など様々な要因により大きく変動する可能性があります。

今後、今期の業績見通しに関し、開示すべき重要な事象等が生じた場合には速やかに公表いたします。

2. 2021年3月期 通期セグメント別計画

AICA

[単位:百万円]

	売上高			営業利益			
	2020/3期 実績	2021/3期 計画	差異	2020/3期 実績	2021/3期 計画	差異	
化成品	103,945	89,400	▲ 14,545	8,123	5,793	▲ 2,330	金額
				7.8%	6.5%	▲ 1.3%	利益率
建装建材	87,555	85,100	▲ 2,455	15,874	12,375	▲ 3,499	金額
				18.1%	14.5%	▲ 3.6%	利益率
(配賦不能営業費用→)				▲ 3,147	▲ 3,668	▲ 521	金額
合計	191,501	174,500	▲ 17,001	20,850	14,500	▲ 6,350	金額
				10.9%	8.3%	▲ 2.6%	利益率

15

通期のセグメント別の売上高・営業利益の計画と、
前期との比較はスライドの通りです。

2. 2021年3月期 上期セグメント別計画

AICA

[単位:百万円]

	売上高			営業利益			
	2019/9期 実績	2020/9期 計画	差異	2019/9期 実績	2020/9期 計画	差異	
化成品	51,349	39,600	▲ 11,749	3,955	2,375	▲ 1,580	金額
				7.7%	6.0%	▲ 1.7%	利益率
建装建材	40,498	37,900	▲ 2,598	7,406	4,362	▲ 3,044	金額
				18.3%	11.5%	▲ 6.8%	利益率
(配賦不能営業費用→)				▲ 1,356	▲ 1,637	▲ 281	金額
合計	91,848	77,500	▲ 14,348	10,005	5,100	▲ 4,905	金額
				10.9%	6.6%	▲ 4.3%	利益率

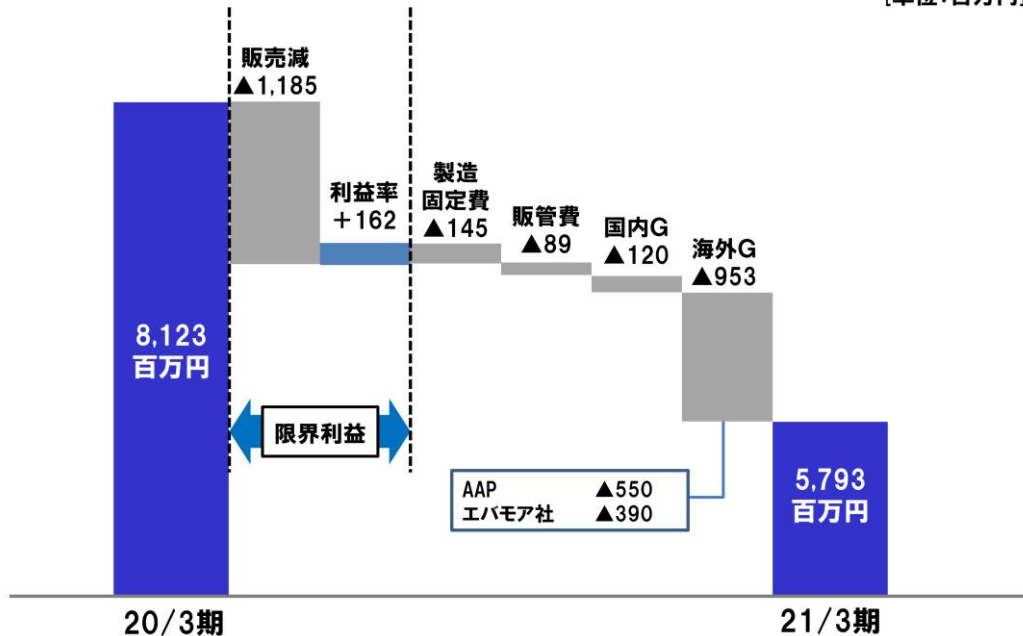
16

2021年3月期 上半期のセグメント別の
売上高・営業利益の計画は、スライドの通りです。

2. 利益増減計画(化成品)〈20/3期vs.21/3期〉

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益
[単位:百万円]



17

このスライドは、化成品セグメントにおける
2020年3月期と2021年3月期の
営業利益見通しの差異を要因別に分析したものです。

利益率改善により
1億6,200万円の利益を増加させる一方、

販売減や、海外グループ会社の減益等により
24億9,200万円の利益減を見込んでおります。

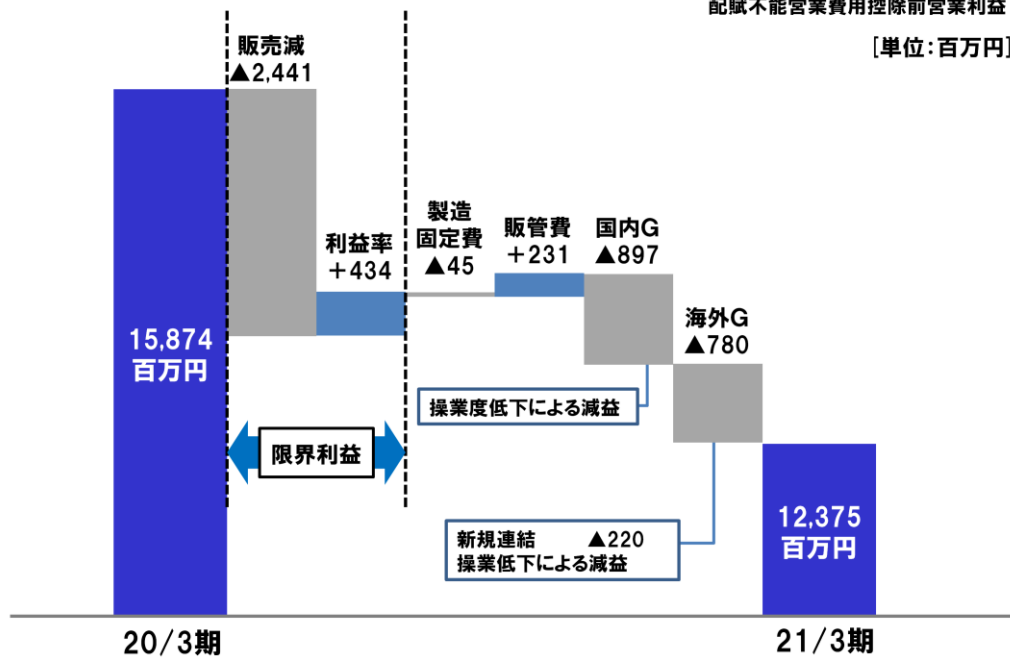
前期に比較して23億3,000万円減の
営業利益57億9,300万円となる予定です。

2. 利益増減計画(建装建材) < 20/3期vs.21/3期 >

AICA

配賦不能営業費用控除前営業利益

[単位:百万円]



18

続いて、建装建材セグメントです。

利益率や販管費の改善により
6億6,500万円の利益を増加させる一方、

販売減や、操業度低下による国内・海外グループ会社の減益等により、
41億6,300万円の利益減を見込んでおります。

前期に比較して34億9,900万円減の、
営業利益123億7,500万円を予定しております。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C & C2000の進捗
 5. 配当について
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

続いて、
セグメント別の現況と方策を、
ご説明いたします。

3-1 化成品セグメント 商品群別売上実績

	2019/3期	2020/3期			
	実績	計画	実績	達成率	伸率
接着剤	659.2億円	670.0億円	636.4億円	95.0%	▲3.5%
AAP	521.1億円	530.0億円	498.0億円	94.0%	▲4.4%
建設樹脂	95.8億円	98.0億円	93.8億円	95.7%	▲2.1%
機能材料	231.6億円	217.0億円	207.0億円	95.4%	▲10.6%
その他	103.9億円	102.0億円	102.1億円	100.1%	▲1.7%
合計	1,090.6億円	1,087.0億円	1,039.4億円	95.6%	▲4.7%

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

20

まず、化成品セグメントです。
 このセグメントは「接着剤」、「建設樹脂」、
 非建設分野として注力している「機能材料事業」で構成しています。

2020年3月期の実績は、ご覧のとおりです。

3-1 化成品セグメント 実績(接着剤)

海外:低迷

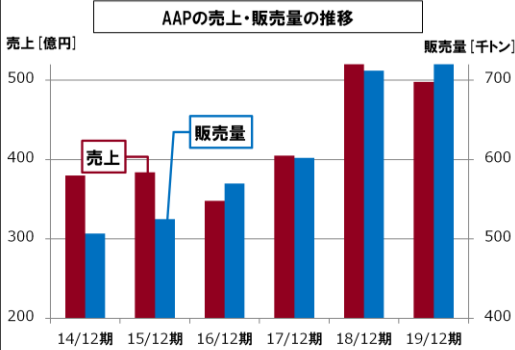
■原料安により減収、販売量・利益は伸長

- ・AAPタイ新規連結(一昨年の2Q~)
- ・中国の環境対応商品竹材用フェノール樹脂好調
- ・AAP×AICAシナジー、約25億円実績化
- ・営業利益39.4億円と好調

国内:好調

■セラール用接着剤(SE-1)伸長

- ・装着率アップ活動注力

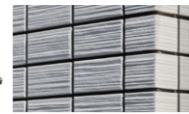


SE-1



■内外装タイル用接着剤拡販

- ・下地調整材とタイル貼りの機能を備える接着剤
- ・タイルのはく落リスク低減
- ・工程簡素化、工期短縮



売上:636億円(対前年96.5%)

原材料安により海外売上低迷

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

2020年3月期の化成品セグメントの実績を振り返りますと、
接着剤について、
海外では、アイカ・アジア・パシフィックが
原材料価格低下に伴う売価低下により売上を減少しました。
一方、AAPタイの新規連結効果により利益は増加しました。

国内においては、
セラール用接着剤「SE-1」が、
セラールの販売増にともない、好調に推移しました。

また、下地調整材と、タイル貼りの機能を兼ね備えた接着剤が、
工期短縮や、タイルはく落のリスク軽減効果において好評を博し
モルタルの代替品として、新規市場を開拓して順調に伸長しました。

3-1 化成品セグメント 実績(建設樹脂)

AICA

ジョリパット
(塗り壁材)



- 好調
- ・新築住宅向け 低迷
- ・リフォーム向け 好調

ジョリエース
(塗床材)



- 低迷
- ・住宅ベランダ向け防水材 好調
- ・工場・倉庫向け 低迷

ジョリシール
ダイナミックレジン
(補修・補強分野)



- 低迷
- ・シール材 好調
- ・タイルはく落防止材 好調
- ・橋梁向け 低迷

売上:93.8億円(対前年97.9%)

塗床材の非住宅向け、補修・補強材の橋梁向け・・・低迷

22

次に建設樹脂です。

外装・内装仕上塗材「ジョリパット」は、
新築住宅向けで低迷するも、リフォーム向けで好調だったことから
前年を上回る結果となりました。

一方、塗り床材は、
住宅ベランダ向け防水材が堅調に推移したものの、
企業の設備投資意欲の減速傾向により
非住宅向けの塗り床材が低迷し、全体としては前年を下回りました。

また、「ジョリシール」「ダイナミックレジン」は、
建築用シール材や、タイルのはく落防止材であるクリアガード工法が
好調でしたが、橋梁向けの低迷により、前年を下回りました。

これらの結果、建設樹脂全体としては、前年を下回りました。

3-1 化成品セグメント 実績(機能材料)

AICA

<p>ホットメルト・機能性アクリル</p>  <p>■好調 ・ヘッドランプ用シール材 →好調 ・衛生材向け用途 →好調</p>	<p>有機微粒子</p>  <p>■低迷 ・プラスチック改質向け、国内化粧品向け →好調 ・LED向け光拡散材 海外化粧品向け →低迷</p>
<p>UV樹脂・シリコン</p>  <p>■好調 ・シリコン →好調 ・電材向けUVコート剤、粘着剤、高機能フィルム →好調</p>	<p>アクリル・コンパウンド</p>  <p>■低迷 ・紙、粘着剤用途 →低迷 ・手袋内面処理剤 →低迷</p>
<p>エバモア社</p>  <p>■売上低迷利益好調 ・ウレタン製品 → ベトナム向けの輸出が好調 ・架橋剤 → AICAシナジー、増収増益に寄与 ・売上112.3億円、前年比83.3%、 営業利益 7.0億円、前年比261.7%</p>	
<p>売上:207億円(対前年 89.4%) 有機微粒子、アクリル・コンパウンド、エバモア社・・・売上低迷</p>	

23

次に機能材料です。

「ホットメルト・機能性アクリル」においては、自動車向けヘッドランプ用シール材と紙オムツなどの衛生材用ホットメルトが好調で、前年を上回りました。

「有機微粒子」については、国内化粧品向けやプラスチック改質材向けが好調に推移したものの、LED向けの光拡散材や海外化粧品向けが低調で、前年を下回りました。

「UV樹脂・シリコン」は、シーラント向けのシリコンや、電子材料向けのUVコート剤、粘着剤、高機能フィルムが好調で前年を上回りました。

「アクリル・コンパウンド」は、手袋用途、紙・粘着剤用途ともに低迷し、前年を下回りました。

また、台湾の「エバモア社」につきましては、原材料価格低下に伴う売価低下により売上が低迷しました。しかし、高収益なベトナム向けのウレタンやアイカ工業とのシナジーによる架橋剤が好調で利益は大幅に伸ばいたしました。

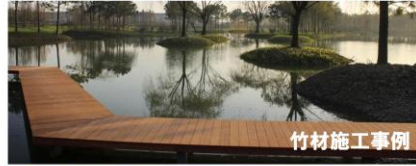
3-1 化成品セグメント 方策(接着剤)

AICA

海外ビジネスの拡大、設備投資・M&A投資シナジーの創出

■ アイカ・アジア・パシフィック

- AAP中国の竹材用フェノール樹脂拡大
 - ・ 中国の環境規制からニーズ増、拡販に注力
- AAPタイのシナジー創出
 - ・ 連結開始(2018年4月～(第2Q～))
 - ・ フェノール樹脂反応釜を新設(2019年7月稼働)
 - ・ 更なるシナジー創出、構造改革に注力
 - ・ 化粧板向けフェノール樹脂を新たに販売



■ フェノール樹脂事業

- ・ 2020年3月期 営業利益が前年比115%
- ・ 新規分野開拓、AAPシナジー拡大に注力
- ・ 合板用接着剤の拡販
- ・ 断熱材向け市場の拡大



海外ビジネスの拡大 投資効果の創出

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

24

続きまして、今後の重点方策についてご説明します。

海外の接着剤については、
アイカ・アジア・パシフィックを中心に拡大を図ります。

中国では、環境問題意識の高まりから、
木材のかわりに、成長が早く、豊富な資源である「竹」を材料とした
「建材」や「木工製品」のニーズが増加しております。
前期も好調であったAAP中国の竹材用フェノール樹脂の拡販に注力します。

AAPタイは、2018年4月より新規連結化した子会社のシナジーを拡大します。
昨年の反応釜設備投資などの効果もあり、昨年度の営業利益は好調でした。
更なるシナジー創出や構造改革への注力、
新規取組みなどにより、更なる利益確保を図ってまいります。

また、国内のフェノール樹脂事業については、
これまでも様々なシナジー効果を創出してきましたが、
新規分野の開拓、AAPとのシナジー注力により
一層の利益創出に努めてまいります。

3-1 化成品セグメント 方策(建設樹脂)

AICA

■環境・高機能・省力化をキーワードとした差別化商品の拡販注力

ジョリパット(塗り壁材)



透湿外断熱システム

パッシブウォール®

省エネ・室内環境向上

長寿命化

ジョリエース(塗床材)



水性硬質ウレタン樹脂系塗り床材
ピュールハード AH工法

業界初 特許出願品

目地処理不要・短工期

紫外線による変色 低減

ジョリシール、ダイナミックレジ
(補修・補強分野)



橋梁補修用 剥落防止工法

クリアタフレジン

クイック1500

省工程・短工期

高い透明性

改修市場 取り込み

25

建設樹脂については、
環境・高機能・省力化をキーワードとした差別化商品の
拡販に注力し、改修市場を取込んでまいります。

外装・内装仕上塗材「ジョリパット」においては、
建物の長寿命化、省エネルギー化などに貢献するため
透湿外断熱システム「パッシブウォール」を昨年リニューアルし、
公共施設・教育施設のエコ改修・新築への提案をいたします。

塗り床では、
目地処理不要で工期が短縮できる
「ピュールハードAH工法」の新グレードも拡充し、
シェアを拡大してまいります。

補修・補強分野では、
従来より省工程かつ高い透明性で経過観察も可能である
橋梁補修用剥落防止工法「クリアタフレジンクイック1500」を
発売・提案いたします。

3-1 化成品セグメント 方策(機能材料)

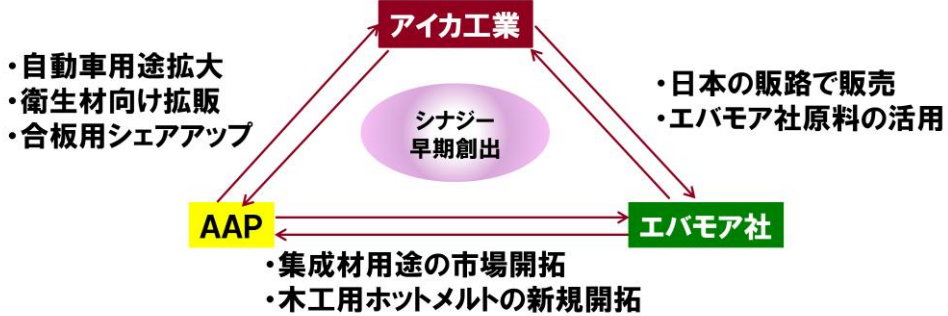
AICA

■エバモア社の新規連結効果創出

- ベトナムウレタン製造会社2社の子会社化
 - ・連結開始予定(2020年6・7月～(第2・3Q～))
 - ・ベトナムに新たなウレタン樹脂製造拠点を獲得
 - ・エバモア社の更なるシェア拡大、新規顧客獲得



■エバモア社・AAP・アイカ工業のシナジー創出



新規連結効果創出 3社シナジーの創出

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック

26

機能材料事業については、
昨年10月にベトナムのウレタン製造会社2社を
エバモア社が子会社化することを決議しました。

近年、エバモア社の主要顧客の一部に生産拠点を
中国からベトナムへ移転する動きが出ており、
ベトナム向けの輸出が増加している中、製造を現地化することが背景です。

今後、更なる拡大が見込まれるベトナムのウレタン樹脂市場で、
一層のシェア拡大を目指すと共に、AAPとも連携し
東南アジア市場での事業拡大も検討してまいります。

台湾のエバモア社、AAP、アイカ工業の
技術力、生産拠点、原材料供給体制を活用し、
更なるビジネスチャンス創出・拡大につなげます。

3-2 建装建材セグメント 商品群別売上実績

AICA

	2019/3期	2020/3期			
	実績	計画	実績	達成率	伸率
メラミン化粧板	173.4億円	202.0億円	195.1億円	96.6%	12.5%
ボード・フィルム等	137.3億円	132.0億円	131.7億円	99.8%	▲4.1%
セラール	197.0億円	209.0億円	210.0億円	100.5%	6.6%
不燃建材	97.4億円	100.0億円	115.3億円	115.4%	18.3%
カウンター・ポストフォーム	163.5億円	169.0億円	169.5億円	100.3%	3.7%
建具・インテリア建材	54.1億円	51.0億円	53.7億円	105.4%	▲0.8%
合計	823.0億円	863.0億円	875.5億円	101.5%	6.4%

27

続いて、建装建材セグメントです。

このセグメントは「メラミン化粧板」、「ボード・フィルム等」、「セラール」、「不燃建材」、「カウンター・ポストフォーム」、「建具・インテリア建材」で構成しています。

2020年3月期の実績は、ご覧のとおりです。

3-2 建装建材セグメント 実績

AICA

■ 2020年3月期 国内建設市場の市場環境

※アিকা需要期へタイムラグ調整済み
期初予想 住宅: ±0.0% 非住宅: ▲1.8%
通期実績 住宅: ▲3.7% 非住宅: ▲3.9%



- ・住宅、非住宅ともに減少も
需要取込み
- ・非住宅は医療福祉、教育施設、
倉庫・工場、店舗などを取込み

■ 2020年3月期 業績を牽引した商品

セラール 消臭タイプ

フィオレストーン

アイカテック建材商品



東北自動車道 蓮田サービスエリア



設計/野村不動産株式会社



設計/株式会社 松田平田設計

建装建材セグメント売上高: 875億円 (対前年106.4%)

アイカソリューション(AS)商品、アイカテック建材商品寄与

28

2020年3月期の建装建材セグメントの実績を振り返りますと、アিকা需要期にタイムラグを調整した国内の建設市場は、住宅市場が3.7%減少し、非住宅市場が3.9%減少しました。

そのような市場環境においても、「セラール消臭タイプ」などの機能性商品が住宅・非住宅市場を問わず好調で推移しました。

人造石「フィオレストーン」は住宅市場において、アイカテック建材の外壁パネル商品は非住宅市場において好評で、

全体としても、好調に推移しました。

3-2 建装建材セグメント 方策

AICA

■AS商品・機能性の拡充

※AS商品：アイコンソリューション商品の略。社会課題解決型の商品群

■抗ウイルス建材「アイカウイルテクト」

- ・メラミン化粧板の基本性能に抗ウイルス性をプラス
- ・製品上の特定ウイルスの数を減少させ、清潔感と快適性の維持に貢献

Virutect
抗ウイルススタイリッシュ ウイルテクト

SIAA
ISO21702
抗ウイルス加工
有機系抗ウイルス剤・練込
化粧表面層
JP0612098X00011
製品上の特定ウイルスの数を
減少させます。

SIAA
ISO22196
for KOHKIN
無機抗菌剤・練込
化粧表面層
JP0122098X0008L

抗菌製品技術協議会が定める
SIAA抗ウイルスマーク、SIAA抗菌マーク
の基準を満たす製品として登録済み

SIAA マークは、ISO21702 法により評
価された結果に基づき、抗菌製品技術
協議会ガイドラインで品質管理・情報公
開された製品に表示されています。

- 抗ウイルス加工は、病気の治療や予
防を目的とするものではありません。
- SIAA の安全性基準に適合しています。

SIAA マークは、ISO22196 法により評
価された結果に基づき、抗菌製品技術
協議会ガイドラインで品質管理・情報公
開された製品に表示されています。

- ・海外でも採用が決定



北京友誼病院



吉林大学中日聯誼病院



東南大学附属中大病院

29

建装建材セグメントの今後の重点方策です。

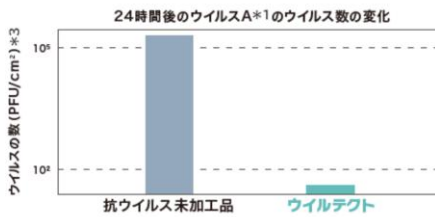
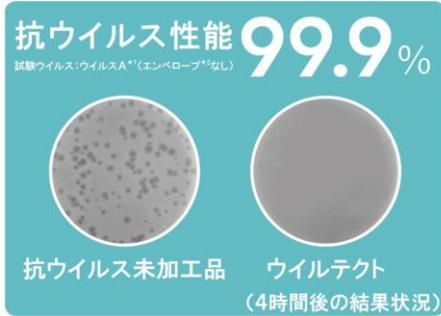
アイコンソリューション商品および機能性商品の更なる拡充により
市場を獲得していきます。

昨年発売した抗ウイルス建材「アイカウイルテクト」は
メラミン化粧板の基本性能に抗ウイルス性能を付与することにより、
製品上の特定ウイルスの数を減少させることができる化粧板で、
抗菌製品技術協議会が定める
SIAA抗ウイルスマーク・SIAA抗菌マークの使用基準を満たしています。

海外でも大型物件での採用が決定しております。

3-2 建装建材セグメント 方策

■抗ウイルス建材「アイカウイルテクト」



試験機関:一般財団法人日本繊維製品品質技術センター
試験方法:ISO21702法
試験ウイルス:ウイルスA*1(エンベロープ²⁾なし)



北野病院手術室 什器表面材:アイカウイルテクト

- *1: 薬機法(医薬品、医療機器等の品質、有効性及び安全性の確保等に関する法律)の関係上、特定のウイルス名が表記できないため、ウイルスAと記載しています。
- *2: ウイルス粒子に見られる膜状の構造。エンベロープがない場合は、エンベロープ有りの場合と比較してアルコール等の消毒剤耐性が強いと書かれている。
- *3: PFU(Plaque-forming unit) プラーク法により測定したウイルス数の指標
(ご注意)
 - 抗ウイルス加工は、病気の治療や予防を目的とするものではありません。
 - JIAAの安全性基準に適合しています。
 - 本製品は感染予防を保証するものではありません。
 - 抗ウイルス性能は全てのウイルスに対して発現するものではありません。また、全てのウイルスに同様な試験結果が得られるとは限りません。
 - 試験機関での結果であり、実際の使用状況で同様の効果を保証するものではありません。
 - 医薬品や医療機器などの医療を目的とした製品ではありません。
 - 表面のツヤが変化するほど摩耗すると抗ウイルス性能が低下することがあります。
 - 表面に汚れなどが付着した状態では、効果を発揮することが出来ませんので、適切なお手入れを実施してください。

「アイカウイルテクト」は
国内の病院においても、採用が広がっています。

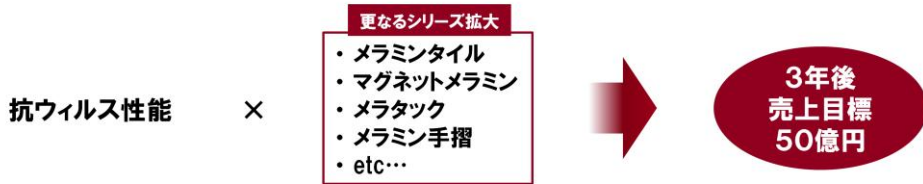
表面に付着したウイルスの数が、
4時間で99.9%減少するという高い「抗ウイルス性能」や、
病院等で使用される強力な消毒剤「次亜塩素酸ナトリウム水溶液」で
繰り返しふき取りを行っても性能を維持できる、
高い「耐薬品性」が評価されています。

3-2 建装建材セグメント 方策

AICA

■AS商品・機能性の拡充

- ・アイカウイルテクトの発売以降、シリーズ商品を拡充



建装建材セグメント通期売上計画:851億円 (対前年 97.2%)

AS商品・機能性の拡充

※AS商品:アイカソリューション商品の略。社会課題解決型の商品群

31

この「アイカウイルテクト」は、
抗ウイルスメラミン化粧板の発売以降、
壁用の「セラール」、「ポストフォームカウンター」、
ドア用の「U.D.コンフォート」へとシリーズを拡大し、
医療・介護施設、育児・教育施設、店舗・飲食店、住宅など、
様々なシーンで採用されてまいりました。

この抗ウイルス性能を
昨年7月に発売した床材の「メラミンタイル」や
様々な商品に付与することにより、
住宅・非住宅市場、床・壁・家具・建具用途とあらゆるニーズを取り込み、
ウイルテクトシリーズの売上を3年後に50億円へ伸長させる計画です。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 - 4. 中期経営計画C&C2000の進捗**
 5. 配当について
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

続いて、
中期経営計画の進捗を
ご報告いたします。

4. 中期経営計画 (2018/3期-2021/3期) の進捗

AICA



新型コロナウイルス感染症の影響により中期経営計画は未達成の見込み

	1年目	2年目	3年目	4年目	4年目
項目	2018/3期 (実績)	2019/3期 (実績)	2020/3期 (実績)	2021/3期 (計画)	2021/3期 (策定時目標)
売上高	1,637億円	1,913億円	1,915億円	1,745億円	2,000億円
経常利益	196億円	212億円	213億円	147億円	220億円
ROE	10.1%	10.7%	9.9%	6.9%	10%以上
海外売上比率	33.4%	42.0%	40.7%	40%以上	35%以上

33

中期経営計画の進捗はスライドの通りです。
2019年3月期は飛躍的な成長を遂げましたが、
2020年3月期は、売上・経常利益が微増、
ROE・海外売上比率は減少しました。

4年目である2021年3月期の計画は、
新型コロナウイルス感染症の影響により
残念ながら中期経営計画の目標には届かない見込みです。

4. 中期経営計画 (2018/3期-2021/3期) の進捗

AICA



34

中期経営計画における投資計画の進捗はスライドの通りです。

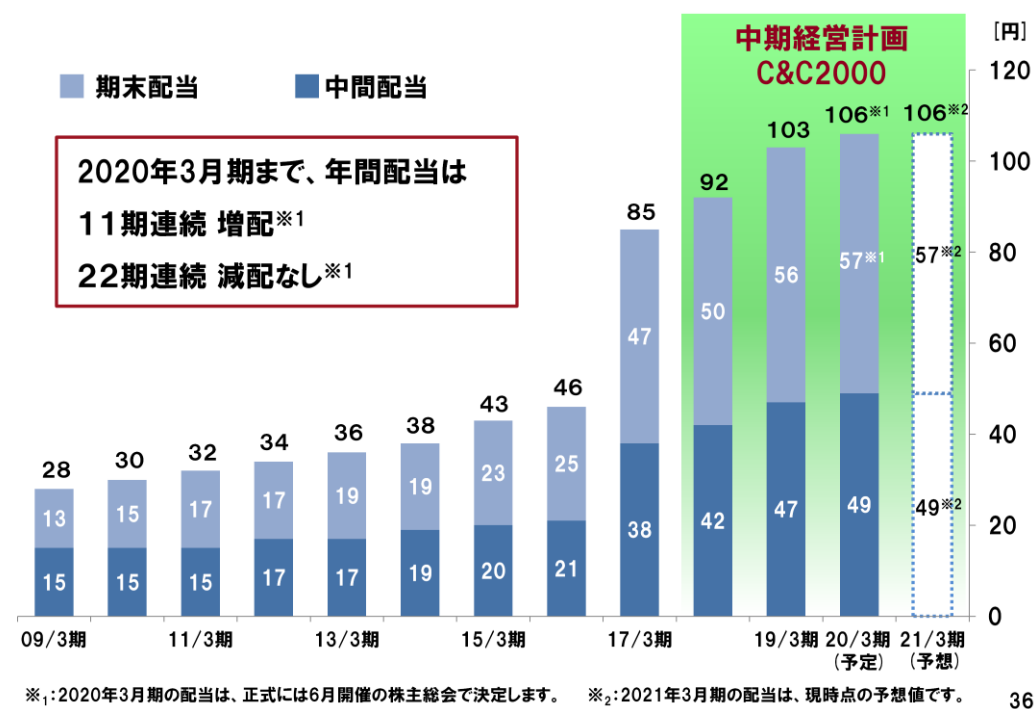
長期戦略実現に向け、引き続き、積極的に成長投資を実行していく計画です。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C & C2000の進捗
 - 5. 配当について**
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

続いて、
配当についてです。

5. 配当について

AICA



当社は、株主の皆さまへの利益還元と会社の持続的な成長を実現するため、各期の連結業績、配当性向および内部留保を総合的に勘案したうえで配当を行ってまいります。

今中期経営計画「C&C2000」においては、連結業績に連動した株主還元を実施しており、2020年3月期の配当は、3円増配の106円を予定しております。

2021年3月期は、新型コロナウイルス感染症による国内外経済活動の一時的後退という特殊要因による減益を予想しておりますが、過去の配当実績と自己資本比率等を勘案いたしまして、昨年同様の配当に据え置く計画です。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C&C2000の進捗
 5. 配当について
 - 6. 海外展開 建装建材セグメント**
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移

最後に、
建装建材セグメントの海外事業についてです。

6 海外展開 建装建材セグメント

AICA

■直近のM&A実績(建装建材セグメント)

	出資 比率	連結 開始	直近業績			のれん 総額
			売上	営業 利益	経常 利益	
ソイス社 ※ ₁	67%	20/3 期 2Q~	23.5億円	2.6億円	2.5億円	13.4億円 (5年償却)
ウィルソナート4社 ※ ₂	51%	21/3 期 1Q~	89.3億円	10.3億円	8.1億円	50.4億円 (8年償却)
アイカHPL トレーディング社 ※ ₃	70%	21/3 期 1Q~	17.7億円	1.8億円	1.9億円	10.4億円 (8年償却)

※₁ : 20/3期業績(9か月分)

※₂ : 19/12期業績

※₃ : 18/12期業績

総額	売上	130億円
	営業利益	15億円
	経常利益	13億円

38

直近2年で

海外における建装建材セグメントのM&Aを3件実施しております。

中国のメラミン化粧板商社であるソイス社を、
2019年4月に連結子会社化しております。

また、世界No.1のメラミン化粧板メーカー、ウィルソナート社の
アジア・オセアニア地域の子会社4社を、
2019年12月に子会社化しております。

また、ベトナム国内で約3割のシェアをもつ
化粧板商社「CHIグループ各社」の事業を引き継ぐ
「アイカHPLトレーディング社」を、
2020年3月に子会社化しました。

6 海外展開 建装建材セグメント（主要拠点）

AICA



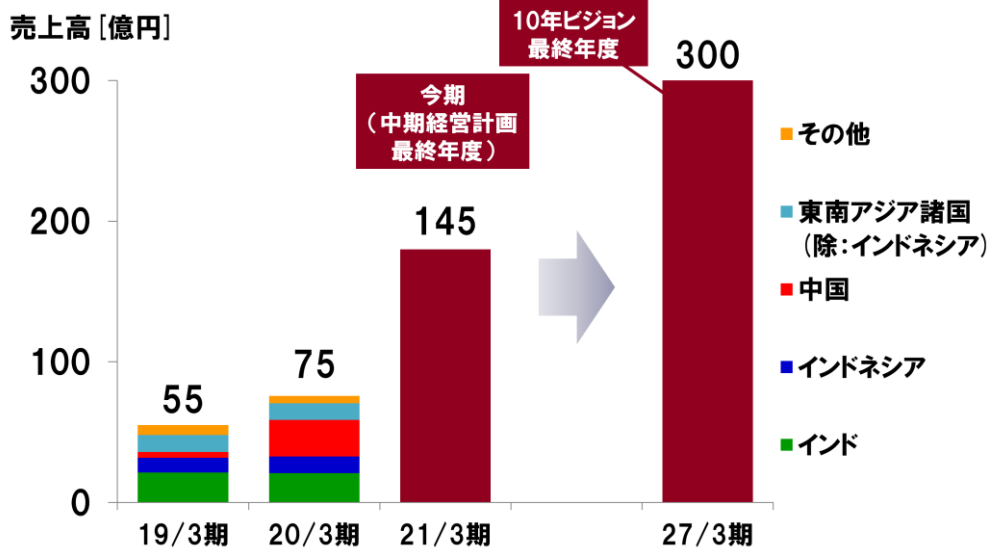
39

これらの案件を加えた当社の建装建材事業の海外の主要拠点は、ご覧の通りとなります。

従来のアイカグループ連結子会社はインドネシア、インド、ベトナムに生産拠点を有しておりましたが、新規連結の会社が加わったことで、タイ、中国、オーストラリアに生産拠点が拡大し、メラミン化粧板生産工場は、これまでの4カ国7拠点から7カ国10拠点到りました。

6 海外展開 建装建材セグメント 計画

AICA



【海外建装建材事業売上高】 20/3期実績 75億円
今期(中期経営計画最終年度) 145億円 10年ビジョン最終年度 300億円へ

40

当社の建装建材事業の海外売上高の計画ですが、

従来は、今期200億円、海外売上比率20%以上を見込んでおりましたが、この新型コロナウイルス感染症の影響により、売上145億円、海外売上比率17%以上に修正し計画しております。

なお、10年ビジョン最終年度の2027年3月期に売上高300億円を目指す計画は据え置きます。

一時的に景気は減速しますが、中長期的に見れば、アジアの建築物では高意匠化・高品質化が進んでいきます。当社グループは、その市場で確固たる地位を築いてまいり所存です。

1. 2020年3月期 実績
 2. 2021年3月期 予想
 3. セグメントの現況および方策
 - 3-1 化成品セグメント
 - 3-2 建装建材セグメント
 4. 中期経営計画C&C2000の進捗
 5. 配当について
 6. 海外展開 建装建材セグメント
- 【参考】工場稼働停止期間
研究開発費、減価償却費、設備投資の推移**

以降は、
参考情報です。

【参考】工場稼働停止期間

AICA

■新型コロナウイルスの影響による工場稼働停止期間

各都市のロックダウンと現地政府からの指示により稼働を停止した期間は以下の通りです

国	セグメント	工場	稼働停止期間 ※ 土日祝日含む
中国	化成品	AAPダイネア南京社	2/5～2/9 (5日間)
	化成品	AAPダイネア広東社	1/31～2/3 (4日間)
	化成品	瀋陽愛克浩博化工社	1/31～2/9 (10日間)
	化成品	昆山愛克樹脂社	1/31～2/28 (29日間)
	化成品	東莞宝建社(EMCグループ)	1/31～2/9 (10日間)
	建装建材	Wilsonart 上海社	1/31～2/9 (10日間)
タイ	建装建材	Wilsonart タイ社	3/30～3/31 (2日間)
インド	建装建材	アイカ・ラミネーツ・インディア社(ALIP)	3/23～4/20 (29日間)
NZ	化成品	AAPアイカNZ社(ネルソン工場)	3/24～4/27 (35日間)
	化成品	AAPアイカNZ社(ニューブレマス工場)	3/24～4/27 (35日間)
インドネシア	化成品	AAPアイカインドリア社第1工場	4/10～4/20 (11日間)
	化成品	AAPアイカインドリア社第2工場	4/10～4/20 (11日間)

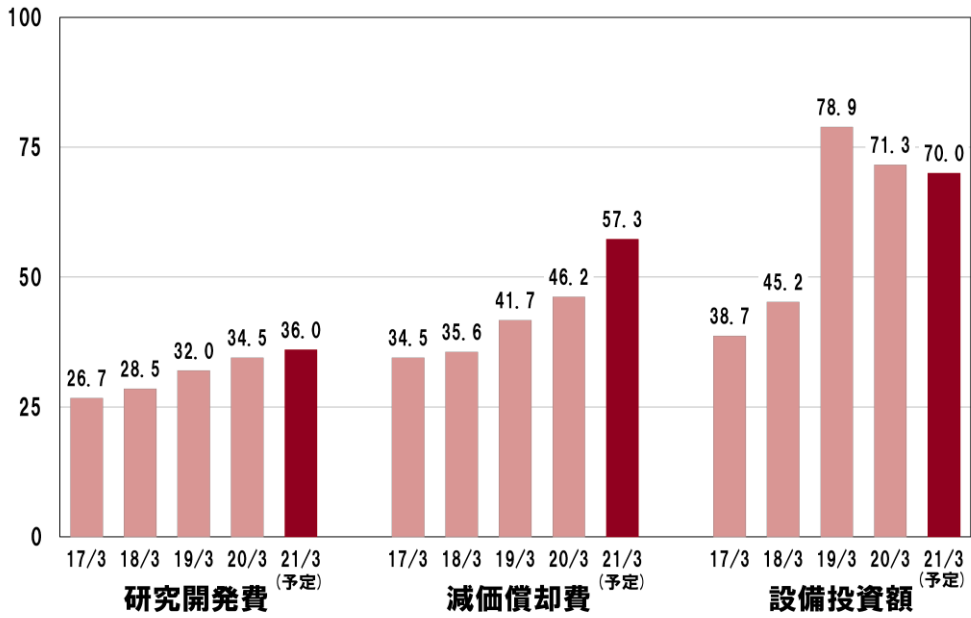
他19工場については、継続して稼働

※AAP:アイカ・アジア・パシフィック ※EMC:エバモア・ケミカル社

42

【参考】研究開発費・減価償却費・設備投資の推移

【億円】





C&C2000
CHALLENGE & CREATION

アイカ工業株式会社

44

以上で私の説明を終わらせて頂きます。

今後とも、継続的に情報開示に努めてまいりますので、
何卒、ご指導、ご鞭撻のほど、よろしくお願い申し上げます。

ご静聴ありがとうございました。